

標 題 : The Influence of Bearing Cycles on Olive Oil Quality Response to Irrigation
オリーブ油品質の灌漑への反応に対する結実サイクルの影響

著 者 : A.Ben-Gal, et al. (イスラエル 土壌・水・環境科学研究所、ヘブライ大学、他)

掲 載 誌 : J. Agric. Food Chem. 59: 11667-11675 (2011)

要 旨 : オリーブ(*Olea europaea*)の'Barnea'および'Souri'品種に関する4年間の研究で、水散布を5段階の速度で実施した。

灌漑の増加は、油の収量増(樹木当り)とポリフェノール含量減をもたらし、高い酸価の油となることが多い。この影響は「不作年」に顕著であった。

脂肪酸組成は第一に結実レベルと品種に影響され第二に灌漑速度に影響された。オレイン酸とステアリン酸が「豊作年」に高いが、パルミチン酸、パルミトオレイン酸とリノール酸は「不作年」に多いという事実の結果として、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の比は「不作年」で「豊作年」より高く、そして1価不飽和脂肪酸と多価不飽和脂肪酸の比は「豊作年」で高かった。

スクワレンは'Souri'品種で'Barnea'品種よりも高く、結実サイクルの影響がなく、最低の灌漑水準を受けている樹由来の油で常に低かった。

キーワード : *Olea europaea*(オリーブ)、水散布、果実重量(fruit load)、遊離脂肪酸、ポリフェノール、脂肪酸組成、スクワレン
